

研 究 結 果 報 告 書

清末民初の天津「日本租界」における初等教育に関する考察
－「日出学館」の事例をめぐって－

所属： 南開大学 外国語学院 日本語学科
役職： 准教授
氏名： 呉 艶

清末民初は中国初等教育の転換期且つ模索期であった。列強諸国が相次いで天津に租界を設置し、租界は近代中国における列強の半植民地支配の拠点であると同時に、諸外国の政治、経済、文化、教育の本拠地でもあった。そのため、天津は近代中国にあって早くから西洋文化の刺激を受け、特に初等教育が全国に先駆けて普及した。天津の租界には、欧米人が開設した教会学校や日本人により創設された小学校、所謂「洋学堂」もあれば、中国本土の「学堂」もあり、多様な教育機関が設立されていた。従来の租界における学校教育に関する研究は「宣教師の活動」という枠内に留まっているものが比較的多く、日本租界の学校教育にまでは言及されないのがつねである。本研究は天津日本租界に絞り、「日出学館」（当時において天津初、かつ唯一の日本人により創立された中国児童のための小学校）の教育状況に考察を加え、教育内容の対比を念頭に置きつつ、中国本土の「学堂」と比較した。と同時に、日出学館は清末の天津の初等教育において、いかなる役割を担っていたのかを究明しようとした。

本研究は文献調査とインタビューの併用で進めてきた。清朝の「欽定小学堂章呈」や「日出学館記事」や「天津居留民団二十周年記念誌」及び当時の新聞や小学校の史料などのような一次資料を使用し、卒業生とその子孫の聞き取りも行った。以上の考察を踏まえて言えるのは、清末民初の天津における近代的初等教育の普及を考える場合、けっして本土の学堂のみによって担われたのではなかったことに注意すべきである。

日出学館の設立が同化政策の一環として、租界の半植民地支配の目的に迎合しようとする政治的側面を持つことは贅言を要さない。だが、ある意味で日出学館によって先進的な近代教育が移入され、天津における近代初等教育を補足し、初等教育の近代化にモデル提示の役割を果たしたことは事実である。日出学館は適齢児童（特に女子児童）に就学機会の提供、また男女共学を提唱したところに、積極的意義を見出し得ると思う。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「清末民初の天津租界における初等教育に関する一考察——日出学館の事例をめぐって」

呉 艶

第一回日本学ハイエンドフォーラム」国際シンポジウム

2013年10月19日～20日 山東師範大学 (中国山東済南市)

「清末民初の天津日本租界における小学校教育——その教育内容について」

呉 艶

第七回中国大学教員「日本歴史文化」高級講習班

2013年8月22～29日 四天王寺大学 (日本大阪市羽曳野市)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「清末民初の天津租界における初等教育に関する一考察」呉 艶

『日本思想文化研究』第6巻第1号 (2013年1月)

「清末民初天津日本租界的初等教育一考——以日出学馆为例」呉 艶

『河北大学学报』第38巻第6期 (2013年11月)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)